

医師の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

項目	具体的な取組み内容	現状	目標	目標達成のための手順
薬剤科における支援	薬剤師の病棟配置により、入院患者に対する医薬品の用法、副作用情報等の提供、副作用観察等を実施する。	実施	継続実施	継続的な活動ができるよう薬剤師を適切に配置する。
	薬物の血中濃度や副作用のモニタリングに基づく薬剤の変更等の提案を行う。	実施	継続実施	
	持参薬識別、院内切替え時の処方提案の実施	実施	継続実施	
看護師による支援	救急外来受診患者のトリアージを実施する。	実施	継続実施	継続実施する。
	特定行為研修の受講看護師を育成する。	実施	継続実施 拡大する	特定行為に係る看護師の研修制度の指定研修機関となり、自院で研修を受けられるようにする。
	認定看護師の活用と資格取得者の増員。	実施	継続実施 拡大する	当院にとって必要な領域の認定看護師研修へ参加させる。
管理栄養士による支援	栄養状況について把握し、医師の指導の下、一般食や特別治療食の内容・形態を提案する。	実施	継続実施	適切な栄養・食事管理を行うため、栄養サポートチームの活動と日々の入院患者のスクリーニングを行う。
	経腸栄養剤の種類を選択や変更を提案する。	実施	継続実施	
医師事務作業補助者による支援	各種文書（各種診断書、診療情報提供書、主治医意見書、難病・身障等の公的文書）を作成する。	実施	継続実施 拡大	・医師事務作業補助研究会の参加、医師事務勉強会の受講と資格取得職員増員と育成 ・未配置の診療科への配置
	外来診療のサポート及び電子カルテ入力補助を行う。	実施	継続実施	
	CT、MRI、内視鏡検査の患者説明を行う。	実施	継続実施	
	臨床データベース（NCD等）を入力する。	実施	継続実施	データ登録実務者の増員と育成
	リハビリテーション科による支援	身体障害者手帳申請等の診断書に必要な計測及び検査を行う。	実施	継続実施

医師の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

項目	具体的な取組み内容	現状	目標	目標達成のための手順
医療機器管理室による支援	ペースメーカー外来のサポート	実施	継続実施	継続実施する。
専門チームの活用	専門チームによるラウンドを実施し、相談、助言等により診療の支援を行う。	実施	継続実施	継続実施する。
逆紹介の推進	地域の開業医等からの紹介患者の積極的な受け入れならびに逆紹介の推進を行う。	実施	継続実施 強化	逆紹介のクリニックや病院を選定するために専任の職員を採用する。また、逆紹介の説明やクリニックの選択の相談を受けられる場所を設ける。
クリニカルパスの活用推進	積極的に活用し、診療の標準化、省力化を図るとともに、情報の共有によりチーム医療を推進する。	実施	継続実施 拡大する	クリニカルパス委員会の活動を活発に行い、パスの増加と適用率の増加を図る。また、パスの適用率を絶えず見える化する。
入院前センター	予定入院患者の入院説明、術前検査等の説明を実施する。	実施	継続実施 拡大する	利用の少ない診療科に対して、働きかける。また、各診療科と話し合い対象患者を増やす。
	入院計画立案のため、患者情報（身長、体重、栄養スクリーニング項目等）、アレルギー情報等を取得し、入院生活における課題を把握する。	実施		
	全身麻酔手術予定患者について歯科衛生士が口腔内の評価を行い、動揺歯のある場合は歯科受診をすすめる。	実施		
	服用中の薬を確認し、手術や検査に伴い、中止するお薬を確認して、医師・看護師に情報提供を行う。	実施		

医師の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

項目	具体的な取組み内容	現状	目標	目標達成のための手順
退院支援	病棟に医療ソーシャルワーカーおよび退院支援看護師を配置し、多職種で入院時から退院に向けた支援を推進する。	実施	継続実施	継続実施する。
	医師が、患者・家族の状況を理解した上で治療に専念できるよう、医療ソーシャルワーカーは相談支援や各種施設や関係機関との情報共有や連携を行う。	実施	継続実施	継続実施する。
勤務に対する配慮	連続当直を行わない	実施	継続実施	継続実施する。
	原則、当直明けは、帰宅することとしており、業務を考慮し、午前中もしくは半日勤務後に帰宅とする。	実施	継続実施	医師採用の取り組みの継続 当直明けの休暇取得を推奨する
	会議開催時間の勤務時間内実施と所要時間短縮。省力化（会議数や回数減少など）の検討。	実施	継続実施	会議資料の事前配布の実施や要点説明による 所用時間短縮
女性医師等に対する支援	24時間体制の保育所あり。病児保育も対応。学童保育施設も敷設。	実施	継続実施	継続実施する。